

第10回 千里浜再生プロジェクト委員会 会議概要

1. 日 時：平成31年2月21日 14:00～16:00

2. 場 所：石川県庁舎 11階 1109会議室

3. 議事

1)羽咋市副市長及び宝達志水町副町長の代理者出席について

- ・羽咋市副市長及び宝達志水町副町長については、現在 空席であることから、代理者をたてることについて委員会に諮り、委員の了承を得た。

2)議事公開の可否について

- ・委員長から議事公開の確認が行われ、委員の了承を得た。

3)千里浜再生プロジェクト委員会 検討資料説明【資料-3】

①これまでの経緯

②平成30年度の実施状況報告（海上投入、人工リーフ、ソフト施策等）

③その他

- ・事務局から①～③について説明が行われた。

(質疑)

- ・各委員からの主な質疑・意見内容について次ページ以降に示す。

第10回 千里浜再生プロジェクト委員会(平成 31年 2月 21日開催) 議事概要

各委員からの主な質疑・意見

1 海上投入の効果検証 (資料 P7~13)

- ・ 今回の海上投入土砂についても、例年同様、うまくバーに取込まれた。この土砂は、岸沖の土砂交換のサイクルに入っているため、予定通りの成果を得ていると考えられる。また、バーは天然の人工リーフであり、この規模が維持されることは、天然の防護機能を補強していると考えられる。
 - ・ 地元漁業者から、水揚高が海上投入後に減少しており、海上投入に伴うヘドロが影響を与えている可能性があるとの意見がある。また、海上投入によりどの程度侵食を食い止められて効果が出ているのか。地元漁業者としては、千里浜再生と漁業を共存、共栄でできる方法を模索してほしい。
- (事務局) 環境影響評価の検査結果からは影響が出ていないことが確認されている。また、たこつぼの中の砂について成分分析も行ったが、投入砂とは違うことを確認している。
- ・ 地元漁協でヘドロが多くなったと言われている原因として、夏場に大量の雨が降り、河川からの土砂が流れ込んだ影響も想定されるが、現地の状況はどうか？
- (事務局) 千里浜海岸には 5 河川から流入している。昨年は、夏から秋にかなりの雨が降り、災害に至るような出水があったものの、それによりヘドロが出てきたかは把握しておらず、因果関係は不明である。
- ・ (委員長) P15 の位置図を見ると、海上投入位置と今浜地区の距離は遠い。また、海上投入地点の近傍では影響があるという調査結果が出ておらず、海上投入の影響とは言い難いのではないかと。
 - ・ 海上投入地点近傍については問題ないとの結果が出ているようなので、今浜、その中間点で調査を実施するなどの対応を検討するのがよいのではないかと。また、海上投入は、施設整備と異なり、砂が移動してからゆっくり効果が見えてくるものであり、現時点では、目に見える回復までは確認できていないと考える。

2 人工リーフの効果検証 (資料 P14~20)

- ・ P16 について、砂浜幅が全体に下がってしまっているが、冬季風浪や大型台風による高波浪や波向きの影響も考えられるので、もう少し長いスパンでの評価を検討してほしい。過去の資料を見ると、北側ほど侵食スピードが速い傾向にあったが、今年度の資料では北側は侵食が抑えられており、これが人工リーフにより侵食が緩和された効果か、どうか、引き続き確認してほしい。
- ・ P17 について、人工リーフは、漂砂の下手側に影響を与えていない設計となっているように見える。また、表紙の写真を見ると、バーの位置とリーフの位置が一致しており、今年は人工リーフの影響が出にくい年であった可能性もあるので、引き続きモニタリン

グしてほしい。

- ・ P16 について、人工リーフ設置により侵食は軽減できており、また、千里浜海岸から南へ抜ける土砂の量も減らす効果も発揮していると考えられる。また、過去の資料では年間 6 万 m³ 流出しているようだが、2 万 m³ の養浜と人工リーフにより、それなりに効果を発揮していると考えられる。今後は、移動限界水深までの土砂量の変化等を確認し、海上投入の効果検証を行ってほしい。

→ (事務局) 現時点では人工リーフと海上投入の効果を見極め切れていないため、引き続き検証していく。

- ・ (委員長) P17 を見ると、人工リーフの上手と下手で挙動が違っても見えるが、何か把握しているか。また P16 のような平均的なものを見方をした場合に、砂浜全体のボリュームがどうかという意見が出ているが、そのようなことも考えていくと、人工リーフや海上投入のトータルとしての効果は、ボリュームによる評価がわかりやすいと感じる。

→ (事務局) 今年度は 5 月から 6 月にかけて浜が戻ってくる挙動が認められるが、はっきりとは傾向がつかめていない。今後ともデータ収集を行いたい。

- ・ P18 によると、H30 年度は 5 月、7 月、9 月と測量をしているが、今後どれくらいの頻度でどの程度の期間続ける予定か。

→ (事務局) 羽咋地区には人工リーフを 1 基設置した状況であり、2 基目をこれから工事着手するので、その工事期間中は今の頻度で測量を続ける予定である。それ以降は、従来から実施している 9 月、および冬季風浪の影響を確認するための 3 月の汀線測量を実施していく予定である。

- ・ P20 に関連して、地下水位の観測結果を見ると、夏場が下がり、秋は高かった。海水面の上昇が地下水位を押し上げているようにも見えるが、海水面自体が上がってきているような状況は、見られないか。

→ (事務局) 地下水と海水面との関係は現時点では把握できていないので、次年度以降、どのような調査等を実施すればよいか等、ご教授願いたい。

- ・ (委員長) 地下水調査時の潮位は把握できているのか？代表地点については古くからの潮位データが整理されているのではないか。

→ (事務局) 近傍の潮位等も参考にコメントを追加したい。

- ・ 地下水位と潮位の関係について、羽咋川河口の水位を測っていると思うが、それを潮位と考えるか、もしくは金沢港のデータを参考として表記してほしい。また、浜の断面地形も表記すると分かりやすい。

- ・ 千里浜なぎさドライブウェイの通行規制の回数が、H22 以降増えているように見える。どのような判断で通行止めをしているのか。

→ (事務局) 潮位、波浪の状況を踏まえ、パトロールを行い、安全確保に懸念がある際に通行止めとしている。波が収まった後、ごみ等の清掃し、安全を確認してから解除している。

- ・ (委員長) 浜幅の変化と通行止め回数を比較するとわかりやすいのではないか。

3 海岸保全の意識向上のための取組み(ソフト施策) (資料 P21~26)

・漂着ごみの調査は、どのように行われていたか。

→ (事務局) 地元の小学生が学習の中で調査していた。

・(委員長) ごみの調査記録は、県・市にまとめられた形で上がってくると有効だと思う。

→ (事務局) 具体的な数字などは持ち合わせていないが、結果がまとめられているはずなので、毎年フォローアップ出来るよう整理していきたい。

・P22について、ものしり教室は、羽咋市、宝達志水町の全 11 小学校に行われたとのことだが、羽咋川上流の小学校には行っているのか。

→ (事務局) ものしり教室は、羽咋川の上流の小学校に対しては、別の市町であり、今回は行っていない。

4 今後の課題と方針 (資料 P27~29)

・(委員長) 海上投入の今後の課題について意見を伺いたい。

→ (事務局) 事務局としては、千里浜に適した養浜材料がもっとないか、金沢港の航路浚渫の範囲や陸上養浜も視野に入れて、千里浜の周辺でさらに調査したい。また、養浜に関しては千里浜の砂浜保全に有効であり、今後とも何らかの形で継続していきたいと考えている。

・まずは残りの浚渫砂 2 万 m³を、千里浜に有効に活用をお願いしたい。その後も海上投入については継続できるとよい。例えば、この近隣では、両端、すなわち滝港周辺と、金沢港の防砂堤の先端が養浜砂の採取候補になりうると思う。また千里浜背後の砂丘の土砂や、飛砂を一定量上手く補足できればそれを活用する案なども考えられる。視野を広げて、引き続き養浜材確保を検討してほしい。

・漁協としては、海上投入は反対であるが、養浜そのものは否定しない。また地先漁業権の事になると地元が詳細な情報を持っている。

・(委員長) 地元意見をどのように聞いていくのかということだが。

→ (事務局) 委員以外の方にも発言を求める場合は、規約により招集することも可能なので、必要と判断されれば、委員会地元漁協から意見を聴取することも考えられる。また、金沢港から千里浜まで広い範囲での地元漁業者からの意見聴取も考えていきたい。

・(委員長) 地元小学生が地引網を行っているが、これも海中の状況を見える化する一つの作業かと思う。このようなことをいろいろなところで進めることが地元の方に理解いただく一つの手立てになるのではないか。

・千里浜なぎさドライブウェイの通行止めの現状等を考えても、今後も養浜の継続が必要と考えている。また、量についても、これまでやってきた 2 万 m³では足りないという現状があるかもしれない。大学の研究では、地元漁業者に協力してもらって、水深の変化状況を把握している例もある。千里浜再生は皆さんの共通の思いだと思うので、そのような仕組みづくりも検討いただきたい。

- ・(委員長) 自然のシステムでは、p28に示す a と b の流れがあると想定されている。a の流れにより、南側では粗い材料が多いが、徐々に細かな成分の割合が多くなって北の沖に届くと考えられており、少し考える範囲を広げて、内灘の少し粗い砂なども活用するなど、検討いただきたい。また技術専門部会も活用して次のステップを考えてほしい。

→ (事務局) 養浜について、少し視野を広げて、事務局で今後の方針を整理したい。そのうえで、委員の方にも相談したい。

- ・(委員長) 今までのモニタリングで足りない分を補い、これまでの活動の範囲を広げ、見方を少し変えた部分も加えることで、所期の目的が達成できるように今後考えていきたい。今後も、より良い千里浜再生につなげてほしい。

以上